

■児童・生徒の学力の状況

○「全国学力・学習状況調査」の結果から、国語、算数とも、全国及び東京都の平均正答率を上回っている。国語、算数とも記述式の問題の正答率がやや低い。国語では、「資料や情報の分類、資料や情報を活用して自分の考え等を表現する」ことを苦手とする児童が多い。

また、質問紙調査の結果では、どの教科の勉強でも、「大切」「どちらかといえば大切」と回答している児童が9割を超え、目的意識や意欲を持って学習に取り組んでいる児童が多い。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題
※「読み解く力」の育成を踏まえて

○児童一人一人の考えを友達同士で交流する場面で、対話を通して互いに高め合い、深い学びにつなげる指導を、ICT機器の効果的な活用を含め、工夫する必要がある。

○「読み解く力」の育成を踏まえた学習指導に取り組もうとしているが、基礎的読解力の視点を適切に取り入れることが不十分で課題である。

○本時のめあてが達成できたかを児童自身が振り返る時間を十分に取れていない。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

○「わかる できる ふりかえる つくる」を合言葉に、学習規律を徹底し、一人一人の児童の学力の基礎・基本の確実な定着と個々の伸びを図る。

○『板橋区 授業スタンダード』に従って、授業の導入で学習の目標を明確に示し、授業の終わりに子ども自身が学んだことをふりかえる場を設ける。

○問題解決型・探究型の授業で「対話的で深い学び」のできる形態での実践をする。地域の人材やゲストティーチャーを活用し協働的な学習を導入する。

○ICTを活用した授業の推進をする。児童が一人一台端末を用いて、自分の考えを表現したり、それをもとに他者と意見交換をしたりし、児童同士が主体的に授業を作っていけるような「学び合い」の場をめざす。

○授業において、教員間の授業交換を推奨する。各教員の得意なこと（よさ）を子どものために積極的に行い、よいものを多くの子どもに提供する。

○「読み解く力」を伸ばす授業を意識的に展開していく。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1 板橋区授業スタンダードの徹底	視点2 読み解く力の育成	視点3 総合的な学習の時間との連携
○各教科等の授業において、「学習課題及びめあての設定→見通し→自力解決→集団解決・交流→まとめ・振り返り」等の学習の流れを定着させる。	○INPUT→THINK→OUTPUTを意識した授業展開や場面設定し、6つの基礎的読解力を意識した授業を展開する。特に、児童が一人一台端末を主体的に活用し、自分の考えを表現したり他者との意見交換を行ったりし、OUTPUTの充実を図る。	○各教科等との連携を図り、それぞれの学びを総合的な学習の時間につなげられるようにする。

■いたばし学び支援プラン2025の実現に向けた具体的な取組

小中一貫教育の推進 板橋のiカリキュラムの活用	カリキュラム・マネジメントの推進	ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現
○近隣の公園や地域をフィールドに生活科や総合的な学習に取り組んだり、また、それらの場で行われるイベント等を知ったりすることにより、地域に根ざした児童の育成を図る。	○総合的な学習の時間では、学び方を身に付けるための単元を設定することにより、探究的な学びの推進を図る。また、各教科等との連携を図りながら、教科横断的・総合的な学習や探究的・協働的な学習を進め、加えて、地域や外部の専門家の方々の協力も得て、児童に学び方や考え方を身に付けさせる。	○ミライシードや電子黒板を常態的に活用し、児童一人一人の考えの共有化を図ったり、学習内容を全体で確認したりすることにより、協働的な学びの実現を目指す。
○令和5年度の創立40周年記念の取り組みをレガシーとし、創立当時の地域の方々の願いに気付いたり、校章に込められた願いを知ったりする機会を継承していく等により、赤塚新町小学校の一員であることの自覚を図る。		○「文房具としての一人一台端末」の活用を目指す。児童が自分の考えをより適切に表現したり、自らの学習を振り返ったり、また、他者との意見交換をしたりするための道具として、一人一台端末を主体的に活用できるようにする。